

# 甲佐中生徒の 子育て体験 「ハロー！ ベビー！」



●甲佐中生徒を対象に開催した子育て体験「ハロー！ベビー！」●（右ページ）妊婦体験シミュレーターや赤ちゃんの人形を使って、子育てについて体験学習●（左ページ）10か月児教室に参加した赤ちゃんやお母さんと交流する中学生たち。実際に赤ちゃんに触れ合い、抱っこや着替え、おむつ交換などにも挑戦



お母さんの疑似体験を通して子育ての苦勞を体感

8月3日（金）町総合保健福祉センターで、子育て体験「ハロー！ベビー！」が開催されました。

思春期の子どもたちが、妊婦の疑似体験や赤ちゃんとの触れ合いを通して、親子の愛情、子育ての楽しさや苦勞、命の尊さなどについて考える体験教室で、町総合保健福祉センターが主催。

夏休みを利用して開催され、甲佐中学校（作田潤一校長245人）の生徒23人が参加。体験教室は、赤ちゃんを持つお母さんの疑似体験と乳児の子育て実習、10か月児教室に訪れた赤ちゃんとの触れ合いとお母さんたちとの交流による2部構成で行われました。

**7kgの重りをお腹に着用して妊婦の大変さを実感**

実際に赤ちゃんに触れ合う前に、妊婦と子育ての疑似体験を受講。保健師の指導の下で、妊娠7〜8か月の妊婦の体験と赤ちゃんとの接し方を実習しました。

妊婦体験では、約7kgの重りを赤ちゃんと想定してお腹に当て、肩と腰で留めて着用する妊婦体験シミュレーターを装着。その状態で、歩く動作や床に置いた本を取



る動作、大きなお腹を抱えて寝る動作などして、体を自由に動かせない妊婦の大変さを実感しました。接し方体験では、赤ちゃんの体形を使って実習。赤ちゃんの特徴について保健師の説明を受け、抱っこや着替え、おむつ交換にも挑戦。赤ちゃんがどれほど小さくて、弱い体であるかを学びました。

**赤ちゃんとの触れ合いを通して感じる命の温かさ**

体験学習でお母さんの疑似体験を受講した後、中学生たちは同日に開催していた10か月児教室に合流して、実際に赤ちゃんに触れ合って子育てを体験しました。

赤ちゃんとお母さんと対面し、赤ちゃんの身体計測の手伝い、着替えやおむつ交換を実際に体験。赤ちゃんたちが自由に動き回ったり、大声で泣き出したりして、子育て体験は四苦八苦。抱っこしたり、おもちゃであやしたりして、優しく触れ合うことで少しずつ慣れて、笑顔で接することができるようになりました。

10か月児教室の終了後に、中学生たちは自分の幼少期の様子などがつづられた保護者からの手紙を読み、家族の愛情を再確認。その後、体験学習を踏まえて、自分を大切に育ててくれた保護者へ、心を込めて感謝の手紙を書きました。